

ロシア4大オペラハウスを作った日本人捕虜 —シルクロードの日本人伝説と極楽収容所—

ISBN 978-4-04-103537-5-C0095

角川書店 価格 1728 円 (税込)

シルクロードの日本人伝説—大戦後、満州から中央アジアのシルクロードに抑留された 450 人余の日本人捕虜の感動的秘話。

1947 年 11 月のロシア革命 30 周年までに建設を命じられたビザンチン風、3 階建て 1400 席のオペラハウス。街を全壊させた大地震にもビクともしなかった劇場はいま、ウズベキスタンの誇りとなっている。戦後 70 年目に蘇る実話。

親日の象徴である「ナボイ劇場」の建設秘話を描いた感動のノンフィクション



拝啓 私は 20015 年 9 月 30 日に新著ノンフィクション「日本兵捕虜はシルクロードにオペラハウスを建てた」を角川書店より上梓いたしました。

このテーマは私が日本ウズベキスタン協会（設立当初は任意団体。現在は特定非営利活動法人。）を設立した後、10 年以上にわたり取材、調査してきました。実話のノンフィクションとするため、何度か挫折しながらも書き上げた思い入れのある本です。

戦後 70 年にあたる今年は、様々な戦後史ものが出版されてきました。なかでも多かったのがシベリア抑留の悲劇です。本作はシベリア抑留の悲劇とは違ったソ連での抑留生活を描きました。

中央アジアの収容所ですごした 457 人の日本人捕虜が旧ソ連の 4 大オペラハウスの一つとなるビザンチン様式の「ナボイ劇

場」をロシア革命 30 年にあたる 1947 年 10 月に完成させたのです。厳しい収容所生活にありながら「後世に日本の恥となるような建築は作らない。その上で、全員が元気に帰国する」ことを使命として永田行夫隊長以下 10~20 代の捕虜たちがウズベク人と協力して建築したものです。

1966 年の大地震でタシケント市が全壊した時、ナボイ劇場だけは凜として悠然と建ち続け、中央アジアの人たちを驚かせました。そのことが 91 年のソ連からの独立以来、日本をモデルにした国づくりをしようという動きになったのです。

シベリア抑留の悲劇に隠れ、ウズベクのオペラハウス建設の秘話はこれまで日本人にほとんど知られていませんでした。ナボイ劇場の裏手に行くと「この劇場は日本人が建設し、完成に貢献した」という碑文があり、これを読んだ日本人は皆涙しま

す。またウズベクの方々毎週日本人墓地を掃除してくれています。

ぜひ若き日本の抑留者たちの労苦と協力・和の精神が中央アジア全体に多くの親日国を作ったことにつながったことを知って頂き、満州抑留兵のもうひとつの秘話を広めて欲しいと思っております。

ウズベキスタン訪問中の 2015 年 10 月 25 日に安倍首相は本書の舞台となったナボイ劇場や日本人墓地にも訪問されております。また、10 月及び 11 月上旬にはアマゾン「日中・太平洋」部門で 1 位になっております。この秋に日本人論を再考し、感涙の一冊としてもぜひ多くの皆様にご紹介いただければ幸いです。

敬具

嶋 信彦

ジャーナリスト、特定非営利活動法人日本ウズベキスタン協会会長
オフィシャルサイト <http://www.nobuhiko-shima.com/>

出版記念特設サイト <http://navoi.nobuhiko-shima.com/index.html>

